



組合員と住宅生協の相互コミュニケーション誌

快適住まい

さいたま
住宅生協
2012.1
No.77

発行・さいたま住宅生活協同組合 〒330-0062 さいたま市浦和区仲町2-10-12 048-835-2801



2012年
新春

さいたま
住宅生協

私たちは今年20歳になります
原点ふまえ時代に即した生協に

設立

組合員のみなさん、明けましておめでとございます。

今年、住宅生協が誕生してから20年を迎えます。1992年8月21日、産声を上げ、339人の組合員で、浦和(当時)法務局に「さいたま住宅生活協同組合」で登記、名実ともに社会の一員(団体)として独り歩きできるようになりました。

住宅生協は、バブル経済期の猫の手も借りたほど忙しい時期、住まいの小さな補修を容易に叶えてもらえない県民の嘆きを「社会的な仕組みで決できるシステムの一つ」としてスタートした生協です。

それは、1844年生活協同組合誕生の原点でもある「困った者同士が集まってものごとを解決すること」に端を発しています。青年になり成人する生協が「量から質への転化」を目標に創る側と技術者の心の目で住み人が癒され、英気を養える住まいづくりを目ざし、力いっぱい活動をすすめて参りたいと思います。

住まいのあり方をさらに追求

理事長
本山 豊

住宅生協が生まれた背景

その日を迎えるまでには、準備期間として1年の月日を要し、根拠となる「生活協同組合法」を事業活動にどう活かしていくか、模索しながらの準備活動でした。生協法に基づく活動ですから県の担当部局へは、頻りに足を運び細かな指導を仰ぎました。



▲1992年3月27日設立総会

住宅生協がスタートした後、当時の担当者から聞いた話では「ここを訪れる県民や団体の方は多いが、法律的な制約や活動を義務付けられることを話すと2〜3回来て、あとは自然に来なくなる。あなた方はよく課題を持って来ましたね」と言われたことを思い出します。住宅生協が生まれた時代背景は、日本経済がバブルの頂点に達した時期でした。それまでの住宅産業は、どんな家でも造れば売れる時代で、家づくりのためには、俗に言う「猫の手も借りたい」時代で街の技術者・職人も仕事で溢れるほどでした。住まいの小さな補修依頼があっても直ぐ解決できる情勢ではなかったのです。「トイレの水漏れ」「下水が詰まった」などの要望に対して「ゴミのような仕事、足代にもならない」と

と断られる時代でした。「生涯の財産として築いた『住まい』を長持ちさせるための補修、その要求に応えることが出来ない社会構造は、何か欠けている」のではな

「庶民・県民の要求に応えられる専門集団、細かな要求が求められる社会の仕組みが求めている中味を形にすることの必要性が生まれてきました。」

数は力の大きな役割

住宅生協が最初に手掛けた事業は、消毒事業です。当時、床下の消毒（シロアリ退治）事業は社会的な不評を買っていました。いわゆる3K（きつい、汚い、危険）の職業であり、工事費も高値が相場でした。床下を真剣に調査する業者は少なく、おざなりの点検に終始。施主は、工事代を高値で要求されるままに負担していました。この状況は、社会問題に発展。マスコミも騒ぎ、テレビで

は床下にもぐった工事関係者が予めポケットに入れてきたシロアリの木片につけて「やはり居ました」と消毒の必要性を訴える映像も放映しました。住宅生協は、この実態を明らかにする必要があると考え、高値に設置されている工事単価を安くできないかを研究。努力によって市場価格の約3分の1に下げられることを県民に知らせました。この反響は大きく、「生協が3Kの仕事をやってくれる」

ことに期待の声が広がり、組合への加入増加となって表れました。この事業は、成功し県内での住宅生協の「知名度」を大きく上げていきました。こうした活動によって年間の事業高を10億円前後に成長させることができました。

「数は力」と言いますが住宅生協の組合員が5千人、6千人に到達した時、活動拠点となる会館を確保でき、組合員を大きく励まし活動の幅も広がり、現在では組合員も2万3千人になりました。

2008年のリーマンショックは、他産業と同じく経済不況の影響を受けましたがメンバーシップ制の強さは現時点でも力強く発揮されています。この間、「高齢者専用賃貸住宅」のCOOPハウス「未来館」を建設、2010年からスタートさせました。いまの時代の要求に合致した事業であり、住宅生協の運営基盤を安定させる方向に歩進める役割を果たしました。

空間でなければなりません。住宅生協は、創立以来「住まいは人権」の「考え方」を基に家のあり方について真剣に考えてきたからこそ、小さな補修や手入れが簡単にできる「社会的システム」が必要と訴えてきたのです。家庭の集まりが自治会などの集落となり、集落が集まり統制されて地方自治体になりそれを統治するのが、国へ

住まいとは何かを心で追求することを目指し

衣・食・住の確保は、人間生活の原点であり、人間らしく生きていく上での3要素です。人間は毎日働き一日の疲れを家庭（住まい）で癒し、明日のエネルギーを蓄えます。それは人間を温かく包み込んでくれる館の役割を担います。

その役割を果たす住まいは、人間（家族）がくらしやすく、生きる上でリラックスできる

生活協同組合のルーツは、19世紀半ばに資本主義が生れたイギリスが原点です。低賃金と長時間労働を強いられていた労働者たちが産業革命と技術進歩の中で「衣食」に事欠く状態からの脱皮を求め、僅かな賃金からお金を出し合い共同購入を始めたのが事の起りです。こうした活動と考え方は社会体制のあり方まで目向けられるようになり、19世紀から20世紀に変わる時期にはヨーロッパ全域とアメリカ、アジア、アフリカ、オセアニアへと広がって行きます。現在、国連加盟193カ国のうち93カ国10億人の人々が組合員になっていますが、世界ではまだ半分以上の国と人口では60億人が未加入です。今年、国際協同組合年

を持った地方自治体や国でなければなりません。

動は、くらしと環境を変革していく役割を担っていることを歴史は教えています。

住宅生協は、家づくりの基本とも言える環境と「共生」できる住まいを日本の気候（風土（春夏秋冬）に合った自然素材を多用する家造りを探求し続けます。それがあらゆる分野の組合員の衣・食・住を護る活動と合致し、同時に政（まつりごと）を司る機関にも働き掛ける役割を果たすことにつながることになるものと考えています。

住宅生協は、20歳を迎えてその入口に立っていることになりました。

生協のあり方とこれからの住宅生協

生活協同組合の活動と運



▲2010年竣工 coopハウス未来館

仕事・建築・現場への思い “住む人の喜びこそが一番”

毎年恒例の協力業者会研修旅行は総勢60人で焼津を中心に、11月20日、21日の2日間の日程で研修と交流を深めました。
今回の研修は、今までは違い「自分が選んだ職業と建築への思い、現場への想い」をテーマに協力業者と職員の発言を中心に行いました。
工事担当者の現場、仕事への想いを、8人の方が発言しました。

植木屋の仕事はできないと思っていたが自然に植木は分かるようになって言われて、私も出来ると思えるようになった。20年前に造園施工管理技士の資格をとった。
今は女性の特典として組合員の奥さんから、信頼されるようになった。社会は経済的に厳しく、経済的な余裕があつて出来る造園だと思っている。安心して生活できるのが社会でなければならぬ。女性の立場で運動に携わり、社会が良くなれば良いと思つている。良い社会が来るように、みんなと力を合わせてやっていきたい。



(株)協立
山本 洋志

真実を伝え
信頼してもらおう

10年前にシロアリ消毒業界に携わることになった。
床下の状況は住んでいる人には見えないので、床下調査には計測器を使って、科学的にデータを出している。計測器などは何のために使うのか、事前の説明が必要、何よりも真実を伝え信頼してもらうことが大事。
ヤマトシロアリによる被害で悲惨な



(株)あかつき造園
鈴木久仁子

社会が良くなつてこそ
できる仕事

結婚した時に、造園の仕事に就くことは決まっていた。夫の仕事ぶりを見てプロは格好いいという印象だった。



フリーダム
木村 秀一

まちの便利屋さんとして

父親が鉄骨業者だったので建築に携わる仕事に就き、世の中で便利な人間になりたいと思つていた。
水道の蛇口パッキン交換工事が10万円というような、悪徳業者のことを聞くと、近所の大工さんのように、便利屋さんとして小さなことでも対応していき、信頼を築き、そこから大きな仕事につながれば何よりと思つている。家のことならなんでもやっていきたいと思つている。



(有)大沼建設設計
事務所
大沼 安之

耐震診断に携わる契機

耐震診断に携わるきっかけは、阪神淡路大震災でしたが、調査で現場に行つてから、調査よりボランティアをしなければと感じた。人の話を聞くことが大事だと思った。

中越地震の時は、新潟県川口町へボランティアで行つた。そこでの建築事務所協会、町長、町職員との温かな人間的な交流が印象に残っている。

診断の90%は公共建築物で、今は学校が終わり、これからは幼稚園が始まります。

制震、免震が増えればと思つているが、増えないのは地盤の影響があり、免震は液化化現象があるとだめだ。これからも住んでいる方達の安心を指し、設計、施工に携わっていききたい。



さいたま住宅生協
事務局
高橋 誠

さらに満足いく
努力をしたい

コープハウス未来館担当窓口で、主に空室を埋める担当です。
途中足踏みをしたことがあった。入居対象者が気に入った場合でも、家族が反対などのケースがあった。
高専質に入っていた人で、24時間管理、3食がついていたが、24時間管理で監視されているのは気が気ではなく、3食がきめられたものしか食べられないことは憂鬱と感じたようです。好きな時に好きなものを食べられる、後は自己責任です。
高齢者は元気なうちは自由に過ごしたいようです。
入居者からは満足いくコメントをもらつているが、さらに満足いくよう努力し、保守管理に励んでいきたい。



(有)中村建築
中村 吉彦

喜ばれる仕事めざし

桶川で30年前に独立した。木造の



(有)シンネット
サービス
大塚 進一

喜ばれるを励みに
日々精進

高校生の時友人からハウスクリーニングのアルバイトに誘われ、たかが清掃と思つたが面白さを感じ、ハウスクリーニング会社に4年間勤めた。
22歳で独立し、最初は仕事は全く



(株)クオリス
鈴木 幸雄

魅力、ユニークさ、
他とは違う

家業が工務店なので子どもの頃は下小屋でよく遊んだ。小さい頃から現場へ行き、高校の時は大工と同じようにやつた。建設会社に勤め、サラリーマンになつて、実家の仕事をやっていくことが一番正しいと感じるようになった。
平成16年会社設立、携わつた住宅建築で自己満足できない建築は、人様も満足できないだろうとの思いで、携わつています。

棟梁が板図に書いてそれで建てるのはすごい。建築が好きで建築の話は一晩中でも良いです。会社は魅力あるものにした、「魅力、ユニークさ、他とは違うぞ」の想いで、末永く努力していききたい。

医療生協さいたま主催「健康フェスタ」に出展

さいたま
住宅生協

「健康住宅」をテーマに 参加者の注目をあびる

11月5日、6日の2日間にわたって、さいたまスーパーアリーナにおいて「つなげよう笑顔」をテーマに取り組まれました。



住宅生協は「健康住宅」をテーマに出展しました。安全な塗装、断熱材、シロアリ消毒等の床下環境、住宅の耐震性等の写真パネル、実物見本を展示。

また、来場者は国交省監修の「誰でもできるわが家の耐震診断」に、住宅生協二級建築士の説明を受けながら、真剣に取り組んでいました。アンケート協力も200人もの方から頂き、住宅の耐震性に関心を



示していました。

体験コーナーでは幼稚園児や小学生が無垢の松材をかんな掛けし、初めての経験に「喜ぶ」憂し、松の香る「かんなくず」をお土産にしました。

今回は、医療生協さいたま、さいたまコープ、埼玉県国際交流協会、埼玉県物産環境協会の4団体のイベントが同時開催で行われ、多くの入場者がありました。



住まいの目

●「今年こそ良い年になってほしい」との思いと期待感を込め、「明けましておめでとう御座います」とあちこちで挨拶が交わされます。しかし、今年もそれが似合わない年になるのではないかと感じがしてなりません。競馬予想のようですが、

それは、国民のくらしを護るべき立場にある政治家が、諸肌を脱ぎ尽くす姿勢がないからです。●何故「民」の気持ちにこれ程のズレが生ずるのか理解できません。現政権は、先の総選挙(2009年)で「国民生活が第一」を訴え、多数の国会議員を確保しました。しかし、その後の政治は、国民を苦しめる政治ばかりが進められています。●東日本大震災は、突然のことでしたが、この災害を隠れ蓑にして増税・TPPなど産業復興に逆行する方向の政治がすすめられ、あわよくば見返りのない増税国に踏み出そうとする姿が見え隠れしています。●なぜ、このようになるのかと考えていくとやはり「国民に奉仕する精神」が欠けているのではないかと、自分の保身のため「に政治を行なっている」という答えが出て来ます。国民のくらしにマス・メディアの影響が強まる中、マスコミに影響されない政治家を送り出していく時期に来ていることを真剣に考えなければなりません。

INFORMATION

消費者住宅セミナー開く

10月15日(土)、さいたま市民会館うらわにて、NPO消費者住宅フォーラムとの共催で「埼玉消費者住宅セミナー」を開催しました。

テーマは「～安全で安心な暮らしを実現する～冬の省エネ(節電)対策と地震に強い住いづくりの秘訣」でした。

埼玉県とさいたま市が後援し、埼玉新聞社が協賛したセミナーで、総勢41名で行なわれました。

- ①「冬の省エネ(節電)対策を重視した住まいづくり」を、消費者住宅フォーラム副理事長・大河内さん。
- ②「エコリフォームの手法と公的補助金などの利用法」を、窓から環境を考える会会長・本橋さん。
- ③「地震に強い住まいづくり」を、住宅生協設計部長・勝見さん。



④「さいたま市の耐震助成制度について」を、さいたま市建築部建築総務課主任・三枝さんの四人の講師が、それぞれ講演しました。特に今回は、さいたま市建築部から講師を派遣して頂き、地震防災マップと耐震助成制度について分かりやすく説明しました。また、参加者は断熱材、エコガラス、耐震金物の展示物の説明を受け、断熱効果などを体験していました。

埼玉県生協ネットワーク協議会 公開学習会

テーマ「生かされて今～生きることそのものに意味がある～」

予期せぬ事故や病気、困難に出会った時、自分をどう見つめ前に進んでいくか。

講師 又野亜希子さん

日時 2012年2月27日(月) 10:30～12:30

場所 さいたまコープ コーププラザ浦和

復興支援・住宅エコポイントの再開

〈概要〉

■工事対象期間

エコ住宅の新築 2011年10月21日～2012年10月31日
エコリフォーム 2011年11月21日～2012年10月31日

■ポイント発行申請期間

エコ住宅の新築 2012年1月25日～2013年4月30日
エコリフォーム 2012年1月25日～2013年1月31日

■対象工事・ポイント数

エコ住宅の新築 被災地は30万ポイント
被災地以外は15万ポイント
エコリフォーム 上限30万ポイント
窓の断熱改修、外壁、天井、屋根または床の断熱改修工事
工事内容に応じて2千ポイント～10万ポイント
併せて以下の工事を行う場合はポイントを加算
バリアフリー工事 上限5万ポイント、
省エネ住宅設備の設置 2万ポイント
耐震改修工事 15万ポイント(別途加算)

※ポイントのうち半分以上を復興支援商品に交換。

埼玉県建築安全安心推進協議会からの助成制度のお知らせ

1、耐震診断耐震改修にかかわる助成制度

埼玉県では多数の方が利用する民間の建築物を対象に、耐震改修への補助制度を実施しています。

2、吹き付けアスベスト対策に係る助成制度

埼玉県では民間建築物に施工された吹き付けアスベスト等の除去等を促進するため、アスベスト含有吹き付け材の除去工事等に対する、費用の補助を実施しています。

※住宅生協は消費者団体として埼玉県建築安全安心推進協議会に参加しています。

葬儀・仏事のことは全てサポートいたします。ご使用になられた以外の請求は致しません。ご安心の明細会計です。

家族葬

一般葬

親族葬

逝く人に家族と同じ心づかい
葬祭奉仕センター

れん じょう しゃ
(有) 蓮浄社

〒330-0056 さいたま市浦和区東仲町8-19
電話048-886-5118 FAX048-881-2545
[厚生労働省認定・一級葬祭ディレクター店]



0120-37-0631

ご相談受付 午前9:00～午後5:00 緊急連絡24時間受付中



▲3階 住宅生協分室



▲2階 指圧センター



▲1階 ケアステーション



▲中村三千代さん(右)姉妹

中村ビル
朝霞台

夫の意志をひき継ぎの 指圧センタービルを全面改装

今回は、朝霞台指圧センタービル(鉄骨3階建て)をご主人の意志を引き継ぎ経営する中村三千代さんの手記をご紹介します。指圧センタービルは、1階が「ケアステーション」、2階は「指圧センター」、3階は「住宅生協分室」として活用されています。ご主人の中村秀治(住宅生協元監事)さんは3年前に亡くなっています。

25年ほど前、夫婦で3階建ての中古ビルを手に入れました。江戸っ子だった夫は「宵越しの銭は持たぬ」ことを地で行くような人でした。当時、購入した家の周囲は畑が多く、武蔵野線の電車の窓から購入

した我が家と大きな看板が見えませんでした。「治療院を始めよう」と夫は、浪越指圧専門学校に学び資格を取って1年後にオープンしました。多くの仲間にも助けられ、先生方

が交代で働いて下さいました。以後、2回の改装を行いました。今回は住宅生協に全面改装をしていただき、全く新しい建物に生まれ変わりました。

今、周辺は高いビルが建ち並び、住み始めた頃の面影はありませんが、中でも存在感のある建物に出来あがっています。

夫亡き後も指圧治療は、先生方によって続けられ、夫の強い意志は、いまにつながっています。結婚以来叔母の指圧を受けていた夫が、「これは良い」と指圧を志したのがきっかけでしたが、それは叔母の意志でもあったからです。

夫が私に残してくれた最高のもの、それは、「人間」(ヒト)であったとしみじみ感じております。それは、住宅生協のみなさん、改装に携わって下さった業者さん、治療院の先生方です。心から感謝いたしております。ありがとうございます。